

「探究計画シート」の活用方法



(授業者の)教科・科目のねらい

教科・科目の学習全体を通して育成を目指す生徒の姿を、学習指導要領や生徒の実態を踏まえ、自分自身の授業観を見つめ直したり、これまでの実践を振り返ったりしながら構想します。



授業の目的・授業づくりの方針

授業で学ぶテーマを把握したうえで、教科・科目のねらいを意識しながら「なぜ学ぶ必要があるのか？」を考え、授業の目的を構想します。また、「教科・科目のねらいや授業の意義の実現のためには、どのような構成にするとよいか？」を考え、授業づくりの方針を定めます。



授業の目標・学習内容・学習方法

1や2を踏まえて、授業の目標を定めます。また、授業の目標を達成するために必要となる学習内容や学習方法を検討します。

学習課題

1~3で考えたことを踏まえ、学習課題を構想します。

この授業までに学習しておく学習内容

生徒が、この授業の学習を進めていく際に、前提として理解しておく必要がある知識等を整理します。

記入例

探究計画シート 高校名 \_\_\_\_\_ 授業者名 \_\_\_\_\_

**教科・科目のねらい** 現代社会の諸課題・諸問題を分析・考察するための知識・技能・判断力(市民的資質)の育成

科目名: 地理総合 日時: 1月16日(金) 3限 クラス: 2-1  
単元名: 世界の人口

授業で学ぶテーマの把握	授業の目的・授業づくりの方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>先進諸国の人口問題の現状と対策の事例</li> <li>日本の人口問題の現状</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口問題(少子化)は日本において重要な社会的課題であり、社会で生きる市民として学ぶ必要がある。特に、日本が今後行うべき政策について考えていく必要がある。</li> <li>諸国の政策を批判的に吟味しながら、今後の日本の政策を意思決定する構成にすることで、将来の政策判断につながる学習を目指す。</li> </ul>

**授業の目標(どのような生徒の姿を目指すのか?)**  
少子化に対する諸国の政策の利点と課題、日本の少子化の現状を踏まえて、日本において有効な少子化に対する政策について考察し、自分の考えを説明できる。【思考力・判断力・表現力等】

学習内容 (どのような内容を、なぜ扱うのか?)	学習方法 (どのような方法を、なぜ用いるのか?)
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の現状、スウェーデン、アメリカの政策を学習し、日本の今後の政策について考察する。</li> <li>スウェーデンは、高福祉高負担で少子化対策に一定の成功を収めた典型事例、アメリカは移民政策で少子化対策に一定の成功を収めた典型事例として日本の政策判断に有効であるため。また、日本の現状を的確に把握することで、有効な政策を判断することにつながるため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二つの学習方法を大事にしたい。</li> <li>①生徒が、資料をもとに学習課題に対する考えを自ら形成していく。 →自ら考えを形成していく中で、社会の構造を読み解く視点や方法を身に付けていけるようにする。</li> <li>②生徒が、他者との協働を基に自分の考えをよりよいものにしていく。 →他者との協働の中で、批判的・建設的な対話を行うことができる力を育成していけるようにする。</li> </ul>

**学習課題**

日本の今後の少子化対策はどうあるべきか?

**この授業までに学習しておく学習内容**

- 世界における人口分布、人口増減の傾向、経済発展に伴う人口転換の様子、国家間の人口移動の様子
- 発展途上国の人口問題とその対策の事例
- 人口転換の際に先進国で起こる少子高齢化の概要
- 合計特殊出生率の概念



学習活動の展開

シート前半で構想した授業の全体構造を踏まえ、「地歴・公民科における探究的な学びの学習過程のイメージ」(p.1を参照)も適宜参考にしながら、「課題把握」「課題追究」「課題解決」の各学習過程における学習活動の展開(問い・指導者の動き・資料・生徒への支援など)を計画します。なお、シート前半とこの欄を行きつ戻りつしながら、授業の全体構造との整合性を意識して学習活動を計画していきます。

地歴歴史科、公民科における探究的な学びの学習過程のイメージ

課題把握	課題追究	課題解決	新たな課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題を設定する</li> <li>社会的意義等を知る</li> <li>実付きや疑問を出し合う</li> <li>課題意識を醸成する</li> <li>学習課題を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決の見通しを持つ</li> <li>予想や仮説を立てる</li> <li>調査方法、追研究方法を吟味する</li> <li>学習計画を立てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予想や仮説の検証に向けて調べる</li> <li>学校外での観察や調査などを通して調べる</li> <li>様々な種類の資料を活用して調べる</li> <li>他の児童生徒と情報を交換する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的意義等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する</li> <li>多面的・多角的に考察する</li> <li>話し合う(討論等)</li> <li>社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する</li> <li>複数の立場の意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する</li> </ul>

**探究の過程(学習活動の展開・問い・指導者の動き・資料・生徒への支援など)**

**課題把握**

○少子化について知っていることやイメージをペアで挙げる。  
○「日本の少子化の現状はどのようなか?」「少子化は、なぜ「問題」なのか?」という問いに対して資料を基に考える。  
→日本は、先進国でも特に少子化が著しい国であることや、少子化が続くと経済成長が阻害されたり、社会保障制度が圧迫されたりするといった問題が発生することを理解する。  
【資料】主要国の合計特殊出生率の推移、今後の人口推移と経済成長の予測  
○「各国の合計特殊出生率を示した資料を見てどんなことに気付くか?どんな疑問をもつか?」という問いに対して考えたことを自由に記入してロイロノートで提出する。【資料】主要国の合計特殊出生率の推移  
→[指導者]提出された疑問点や気付きをまとめながら、合計特殊出生率が日本よりも高く少子化対策が成功しているような国について研究することで、日本の今後を考えようという方向性で、学習課題とそれを考察するための問い(Q1~Q3)の提示に導く。  
○学習前の自分の考えを記述する。

**課題追究**

Q1 なぜ、日本の合計特殊出生率は低いのか?  
→日本の少子化の原因、現在行われている少子化対策などを調査・分析していく。  
【資料】各国の家族関係政府支出、日本の子ども一人当たりの年間養育費の推移、日本の少子化対策の概要とその評価、など  
Q2 なぜ、スウェーデンは日本よりも合計特殊出生率が高いのか?  
→スウェーデンの政策の特徴や、デメリット、日本に導入する際の実現可能性を調査・分析していく。  
【資料】スウェーデンの少子化対策の概要、各国における社会保障負担と租税負担の国民所得に占める割合、各国の合計特殊出生率と家族関係政府支出、など  
Q3 なぜ、アメリカは日本よりも合計特殊出生率が高いのか?  
→アメリカの合計特殊出生率が日本と比べ高い理由、その背景にある政策のデメリット、日本に導入する際の実現可能性を調査・分析していく。  
【資料】アメリカの人種別の合計特殊出生率の推移、アメリカに流入する移民の年齢、アメリカに流入する移民の出身国、各国の合計特殊出生率、など

**課題解決~これからも考え続けるための出発点~**

○日本の今後の少子化対策について、スウェーデン、アメリカの政策のメリット・デメリット、実現可能性などを基に意思決定し、自分の考えを記述する。  
○グループで考えを共有し、アドバイスをし合いながら、自分の考えをよりよいものにする。

「探究的な学び」の計画のポイント(一例)

課題把握

授業の意義との関連を意識して、生徒がそのテーマを学ぶ意義を実感できるようにすることが大切です。記入例では、少子化の実態を把握する学習活動に取り組む中で、生徒が問題の切実さを実感し、学習課題を自分事に行えるように計画しました。

課題追究・課題解決

自身が重視したい学習方法を実現できるように、具体的な学習活動を計画していくことが大切です。記入例では、生徒が自ら考えることと、他者と協働することを意識して具体的な学習活動を計画しました。

「探究計画シート」を活用することで、教科・科目のねらいを念頭に置いて、授業の全体構造や具体的な学習活動を計画できます!

